



在福岡タイ王国総領事館ニュースレター

タイの鼓動

OCT 2025
VOL 3

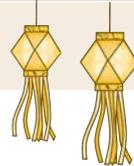
In Focus

タイ北部：伝統文化からスマートシティ、そして持続可能な発展へ



画像出典: チェンマイニュース

編集長からのごあいさつ



読者の皆様、こんにちは。

在福岡タイ王国総領事館が発行する季刊誌「タイの鼓動」第3号（2025年10月～12月号）では、秋から冬へと移りゆく季節にあわせ、最新のタイ情勢や当館の活動をお届けいたします。

これまでの3か月間、タイではさまざまな重要な出来事がありました。たとえば、タイとカンボジア国境で発生した新たな衝突、タイと米国との関税交渉の結果、タイ産品に対して平均19%の相互関税が課されることになったこと、新しい首相および新政権の誕生、さらに経済・社会分野における新たな法律や施策の施行などです。本号では、こうした動向を分かりやすくまとめてご紹介します。

当総領事館の活動としては、8月に総領事が鳥取県、島根県、山口県を訪問し、各県知事への表敬訪問や地域の経済界との意見交換を通じて、さらなる連携強化に向けて模索しました。また、駐日タイ王国大使の代理として、広島と長崎で開催された原爆投下80周年平和記念式典に参列しました。その他にもこの四半期を通して、多岐にわたる分野での活動を実施してまいりました。大分県で開催された「タイフェスティバル大分」への参加、沖縄県での「移動領事業務」の実施、博多阪急百貨店で開催された「アジアフェスティバル2025」への訪問、さらには「フードバンク福岡」を通じたフードドライブ社会奉仕活動など、多彩な取り組みを実施しました。詳細は本号にてご覧いただけます。

10月はタイの会計年度の始まりの月です。新年度を機に、当総領事館ではタイと日本双方の関係機関と連携しながら、九州・沖縄、中国地方とのつながりをさらに深めるべく、さまざまなプロジェクトや活動を計画・展開してまいります。ご関心のある方は、ぜひthaiconsulate.fuk@mfa.go.thまでご提案・ご意見をお寄せください。

本号をご覧になる頃には、すでに冬を迎えている方もいらっしゃることでしょう。どうぞお体に気をつけて、温かくお過ごしください。

目次

- タイの最新動向.....P2
- 在福岡タイ王国
総領事館の活動報告.....P3-4
- タイ関連イベント情報...P5
- In FocusP6-7
- タイの暮らしと文化.....P8-9



在福岡タイ王国総領事館

〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-37 第1明星ビル2階



fukuoka.thaiembassy.org



092-739-9088



RTCGFukuoka



@ThailandFukuoka



thaiest.fukuoka



タイの最新動向

タイ新政権発足、アヌティン首相は内相も兼務、外相に元駐日大使



アヌティン・
チャンウィーラクーン
首相



シーハサク・
プアングートゲーオ
外務大臣

9月19日、アヌティン・チャンウィーラクーン新首相が提出した閣僚名簿がワチラーロンコーン国王に承認され、新政権が正式に発足しました。これに先立ち、憲法裁判所は8月29日、ペートンタン・シナワット前首相がカンボジアとの国境問題への対応をめぐり憲法上の倫理規定に違反したとして、解職を命じました。その後、タイ議会下院は9月5日、首相指名投票を実施し、プームジャイタイ党（タイの誇り党）党首のアヌティン氏を新首相に選出しました。新内閣において、アヌティン首相は内務大臣を兼務し、経済・外交チームにはエクニティ・ニティタナプラパス元物品税局長が副首相兼財務相（経済チームトップ）、スパジー・スタンパン元デュシタニ・グループCEOが商務大臣、アタポン・ラークピブーン元PTT（タイ石油公社）CEOがエネルギー大臣、そして駐日大使および外務省事務次官を歴任したベテラン外交官のシーハサク・プアングートゲーオ氏が外務大臣に就任しました。

タイ政府、持続可能な環境管理に向け電子ゴミ輸入禁止対象を拡大

6月24日、商務省による電気・電子機器廃棄物（e-waste）を輸入禁止品に指定する告示が施行されました。2020年に禁止対象とされていた428品目を463品目へ拡大し、新たに電気コンデンサや電池、水銀スイッチ、プリント基板（PCB）を含むコンデンサや化学系廃棄物で汚染されたコンデンサなどが追加されました。また、関税分類（HSコード）も国際基準（HS2022年版）に合わせて改定され、不正輸入防止を強化します。今回の規制強化は「タイを世界のごみ置き場にしない」という明確な姿勢を示し、循環型経済と持続可能な環境管理に向けた重要な一歩と位置付けられています。



画像出典: bangkokbiznews

タイ政府、カンボジアとの紛争で影響を受けた企業向けにタイ移転支援を承認



タイ投資委員会（BOI）は8月8日、カンボジアとの国境閉鎖によるサプライチェーン混乱を受け、生産拠点をカンボジアからタイに移転する企業への支援措置を承認しました。対象はタイ人・外国人投資家で、輸送コストの上昇やルート変更、遅延などに直面する企業が想定されています。支援内容には、中古機械の輸入関税全額免除、製造から10年以内の中古機械に対する投資額の100%の法人税免除、BOI認定プロジェクトにおける機械移転時の輸入許可などが含まれます。申請および移転計画の提出期限は2026年末。BOIはこれらの措置により、企業の事業継続を図るとともに、タイを地域の製造拠点として強化することを目指しています。

タイ、ミャンマー難民の就労許可

タイ政府は8月26日の閣議で、ミャンマーからの避難民に対し、最長1年間の就労を特例的に認める方針を承認しました。対象は国境沿いの9施設に居住し、既に登録を済ませている避難民で、労働省に申請すれば小売業や労務など、外国人労働者に許可されている職種での就労が可能となります。初回の労働許可証申請は手数料が免除されますが、施設外で働く場合は事前許可が必要で、健康保険への加入や法定手数料の支払いが条件とされています。今回の措置は、避難民の自立と生活の安定を促進すると同時に、労働力不足を緩和し、企業負担の軽減にも寄与すると期待されています。



画像出典: Thairath Online

在福岡タイ王国総領事館の活動報告



地方議会・行政機関との相互交流

総領事が中国地方を訪問 鳥取・島根・山口県との多角的な日タイ連携を推進

総領事は2024年3月の着任以来、管轄内13県すべてを訪問しました。直近の四半期には、中国地方の鳥取県、島根県及び山口県を訪れ、経済、観光、人的交流など幅広い分野における日タイ地域間での連携・協力の促進について意見交換を行いました。とりわけ、相互訪問、セミナーやビジネスマッチング、観光・文化の発信、さらには優良事例の共有など、多様な形で協力の可能性について協議しました。

2025年8月19日、鳥取県の平井伸治知事との会談では、既存の協力基盤や鳥取県がバンコクに設置する東南アジア地域拠点「鳥取県東南アジアビューロー」を活用し、具体的な成果につなげていくことの重要性を強調しました。8月20日には島根県の丸山達也知事と会談し、学生交流を通じて相互理解を深め、双方の魅力を発信する「親善大使」としての役割を果たし得ることを確認しました。さらに8月28日、山口県の村岡嗣政知事との会談では、多くの技能実習生を含む200人以上のタイ人が同県内に在住している現状を踏まえ、経済交流の活性化やタイからの技能労働者のさらなる受入れの可能性について意見交換を行いました。



2025年8月19日鳥取県庁にて平井伸治知事を表敬訪問



2025年8月20日 島根県庁にて丸山達也知事を表敬訪問



2025年8月28日 山口県庁にて村岡嗣政知事を表敬訪問

総領事、広島・長崎原爆投下80周年平和記念式典に参列

2025年8月6日及び9日、総領事は駐日タイ王国大使の代理として、夫人及び総領事館職員とともに、広島市及び長崎市で執り行われた原子爆弾投下80周年平和記念式典に参列しました。本式典には、日本政府、各国政府、関係国際機関の要人、ならびに両市の市民らが多数参列しました。この参列を通じて、タイとしても日本及び国際社会とともに、平和の構築と核兵器の不拡散を支持し推進していく決意を改めて表明しました。



副総領事、沖縄県および那覇市の交流・観光・防災担当部局と会談

2025年8月26日、副総領事は総領事館職員らとともに、沖縄県及び那覇市の国際交流、観光振興、防災を所管する関係部局の幹部並びに職員と会談を行いました。本会談では、災害や緊急事態への対応における協力の在り方について意見交換を行い、とりわけ、在沖縄のタイ人や来県するタイ人に対する支援・保護のための連絡調整ルートを強化するとともに、関係機関の指示に基づき確に行動できるよう、タイ人への情報発信を迅速に行う方策について協議しました。



経済分野の交流・先進事例の共有

総領事、商工会議所会頭および民間企業代表と会談

総領事は管轄地域の各県を訪問する機会に、地域の経済界代表者と会談し、経済協力の促進に向けた意見交換を行いました。2025年8月19日には鳥取商工会議所の児嶋祥悟会頭と、また8月28日には下関商工会議所会頭兼山口県商工会議所連合会会長の曾我徳将氏と会談し、農産物の開発・加工、観光、人材分野など双方の強みを生かした協力について協議するとともに、タイ側としても「チーム・タイランド」や関係機関と連携しながら経済交流を推進していく用意がある旨を確認しました。



さらに島根県の株式会社イワクラの山口聖次社長、山口県の株式会社西川ゴム山口の京本敬二社長とそれぞれ懇談し、両社がタイ人技能実習生を受け入れている現状や今後の日タイ経済協力の方向性について意見を交換しました。併せて総領事はタイ人技能実習生の生活状況の視察や激励を行いました。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

博多阪急で「アジアフェスティバル2025」開催 タイ関連11社が出展し成功裏に閉幕



2025年7月9日から14日まで、博多阪急にてタイ国政府通商代表事務所広島とタイ国政府観光庁福岡事務所の後援により「アジアフェスティバル2025」が開催され、多くの来場者でにぎわい、盛況のうちに幕を閉じました。今回で4回目となる本イベントには、タイ関連の11社が参加し、タイの美味しい料理や雑貨、ファッションなどを日常生活に取り入れるヒントや楽しみ方が紹介されました。さらに、タイの人気キャラクター・マムアンちゃんのグッズや原画を購入できる「やっばタイだマムアンちゃん展」も同時開催され、大きな注目を集めました。

「九州アジアコーヒーフェスティバル」博多阪急で開催 タイ・アカ族の村からAKHAAMA COFFEEが出店



同じく博多阪急において、8月27日（水）から6日間にわたり第3回「九州アジアコーヒーフェスティバル」が開催されました。タイ国政府通商代表事務所広島の仲介により、タイの北部アカ族の村で栽培された豆を用い、生産から提供まで一貫して担うAKHAAMA COFFEEが出店しました。ピーチやライチを思わせる華やかな甘さと果実感、さらにレモンのように澄んだ酸味が特徴のANUSORNの他、個性的な特徴を持つ数種類のコーヒーで、会場を訪れたコーヒーラバーたちを大いに魅了しました。

社会・文化・教育分野の交流

タイフェスティバル大分2025



2025年7月5日、総領事とタイ国政府観光庁福岡事務所長は「大分県日タイ友好協会」が主催する第5回大分タイフェスティバル2025に出席しました。本イベントは、トヨタカローラ大分 祝祭の広場を会場として開催され、県および大分市をはじめとする多方面の協力により実現したものです。今年のフェスティバルでは、タイ料理や飲料の屋台、タイ雑貨の販売、タイ古式マッサージ体験、観光情報ブース、さらに多彩な文化芸能公演などが展開され、来場者はタイの雰囲気を感じることができました。また、この機会に総領事館は、タイ文化のさらなる普及と認知度向上の促進を目的とした支援金を同協会へ贈呈しました。

広島タイ交流協会のタイ語講座を支援



2025年8月25日、副総領事は領事とともに、広島市留学生会館で実施されている広島タイ交流協会のタイ語講座を訪問し、講師や受講生らと懇談しました。本学期は総領事館が活動を支援しており、初級・中級・上級の3クラスが開設され、日本人をはじめ外国人など、タイの言語と文化に関心を持つ多様な受講生が学んでいます。同協会は2004年からタイ語講座を実施しており、これまでの受講者は延べ450名を超えています。ご興味のある方は、広島タイ協会 (<https://www.hiroshimathai.com>) までお問い合わせください。

フードバンク福岡へ食料を寄贈

2025年8月25日、総領事は夫人及び総領事館職員とともに、特定非営利活動法人フードバンク福岡を訪問し、米や保存食品を寄贈するとともに同団体の活動に関する説明を受けました。本活動は、令和7年8月12日のシリキット王太后陛下御生誕日に際し、奉祝事業の一環として行われたボランティア・社会奉仕活動です。



領事業務

沖縄県で移動領事サービスを実施

2025年8月26日、総領事館は沖縄県那覇市の「なは市民協働プラザ」内にある「なは市民活動支援センター」3階の第3会議室で移動領事サービスを実施しました。今回の出張サービスでは、タイ人のパスポート申請、書類認証、ならびに領事業務相談等を行い、地域に在住するタイ人がより身近に領事サービスを受けられるよう便宜を図りました。



タイ関連イベント情報



COLIVE FUKUOKA 2025

世界とつながるスタートアップ&ノマドの祭典



世界中のデジタルノマド、スタートアップ、クリエイターが集う国際会議「Colive Fukuoka (コリブ・フクオカ) 2025」が10月に開催されます。トークやワークショップ、スタートアップ・ピッチイベント「RAMEN TECH」、ネットワーキング、さらに屋台文化やアート体験など、多彩なプログラムが予定されています。

今年はタイ・チェンマイ市と地元事業者のチームが参加し、サンパーコイ地区を“デジタルノマドフレンドリー地区 (Digital Nomad Friendly District)”として世界に発信。国際的な交流と新しい発想の出会いを求める方にとって、絶好の機会となるはずです。ぜひご参加ください。



開催期間: 2025年10月1日(水)・31日(金)
会場: 福岡市内各所および九州地域
公式サイト: <https://colivefukuoka.com/>



2017年の初開催以来、9回目となる

「タイフェスティバル in SAGA」 シリー9



佐賀県とタイとの友好の象徴として恒例行事となったこのイベントは佐賀とタイが織りなす唯一無二のコラボレーションイベントとして、毎年ユニークな試みで来場者を楽しませてくれます。今年はタイ王国文化省芸術局の舞踊団のステージも披露され、例年以上に華やぎとタイらしさを味わえるはず。



開催期間: 2025年10月18日(土)・19日(日)
会場: 佐賀県立図書館南広場 (こころざしのもり) (佐賀市城内 2-1-41) 及び佐賀城公園南濠
主催: 佐賀県
公式サイト: https://www.instagram.com/thaifestival_saga/

チェンマイ・コムローイ祭り 2025

満天の夜空を彩る、幻想的なランタンの祭典



毎年11月の満月の夜に行われる「コムローイ祭り(=ランタンフェスティバル)」は、チェンマイ県を代表する光の祭典です。夜空に無数のランタンが一斉に舞い上がる光景は圧巻で、世界中から人々が訪れます。このお祭りではランタン(紙灯ろう)が空に放たれるほか、仏教儀式や伝統舞踊、灯籠流し、ステージイベント、ナイトマーケットなども開催され、街全体が幻想的な雰囲気に包まれます。

ランタンには「願い・厄払い・幸せを迎える」という意味が込められており、それぞれが願いを込めて空に放ちます。何千ものランタンが夜空に浮かぶ光景は一見の価値あり。訪れる人々に特別な体験を与えてくれるはずです。



開催日: 2025年11月5日(水)・6日(木)
会場: タイ・チェンマイ ロイヤルチェンマイゴルフリゾート (Royal Chiang Mai Golf Resort)
公式サイト: <https://yipengchiangmai.lanternfestival.com/>

チェンマイ・デザイン・ウィーク2025

創造とつながりが広がるタイ北部の祭典!



タイ北部チェンマイ県を舞台に、「チェンマイ・デザイン・ウィーク2025」が9日間開催されます。チェンマイや他都市のデザイナー、職人、アーティスト、起業家が集い、革新的なデザインやプロジェクトを発表し、多様なクリエイティブ文化を発信します。展示会、トークショー、ワークショップ、パフォーマンスなど多彩なプログラムを通じ、

地域社会や観光客を含む幅広い人々が出会い、アイデアを共有し、新たな体験を創造する場となります。今年のテーマは「Local Plus」。ポジティブな思考、創造的なエネルギー、そして無限のコラボレーションが息づくタイ北部の新たなハブ像を描きます。地域の強みを活かしつつ、世界とのつながりを深めることで、チェンマイと北部地域のさらなる飛躍を目指します。

開催期間: 2025年12月6日(日)
会場: タイ・チェンマイ市内各地
主催者: タイ首相府、クリエイティブ・エコノミー・エイジェンシー(CEA)、TCDCチェンマイ
公式サイト: <https://www.chiangmaidesignweek.com/en/cmdw2025>



当総領事館は今年6月にタイ北部ランブーン県に福岡県の廃棄物管理専門家と福岡県環境部職員チームを派遣し、タイ現地の地域ごみ処理システム改善事業を実施しました（詳細はニュースレターVol.2をご参照ください）。現地では、専門家も認めるランブーン県の先進的な「ゼロ・ウェイスト」社会への取り組みに触れるとともに、伝統文化と経済成長、イノベーションと持続可能な発展のバランスの取れた共存を目指す、タイ北部の新たな可能性に触れる貴重な機会となりました。今回の「In Focus」では、その内容を皆さまにご紹介いたします。

タイ北部といえば、多くの人々が最初に思い浮かべるのはチェンマイでしょう。チェンマイは何世紀にもわたり、ランナー王国の文化的、政治的、経済的な中心地でした。美しい自然と貴重な歴史遺産から「北方のバラ」と称され、多くの人々を魅了しています。米旅行誌 Travel+Leisure（トラベル・アンド・レジャー）が選ぶ「2025年ワールドベストアワード」では、「2025年アジアのベストシティ」に選ばれました。



また、リーズナブルな生活費、最新のインフラ、高速インターネットを備えながらも、昔ながらのゆったりとした生活様式を保っているため、デジタルノマドや長期滞在の観光客にも人気の目的地です。さらに、タイ政府の政策による Destination Thailand Visa (DTV) と Long-Term Resident Visa (LTR) などの長期滞在ビザが、世界中の専門家やリモートワーカーをチェンマイやその周辺地域に引き寄せています。これらの人々の長期滞在により、チェンマイという街の発展が促されることによって、単なる「訪れたい」場所ではなく、真に「住みたい」場所へと変わりつつあります。

北部を動かす新たな原動力

タイ北部の発展は、ひとつの都市だけで起こっているものではありません。地図を広げてみると、「北部経済回廊（Northern Economic Corridor: NEC-Creative LANNA）」プロジェクトによって、4つの主要都市が互いに連携しながら織りなすように発展している様子が見えてきます。経済とイノベーションの中心地であるチェンマイから始まり、隣接する小規模ながらハイテク産業拠点として強力なランブーン、物流とグリーン工業団地で新たな役割を築いているランバーン、そしてタイ最北端に位置しメコン川流域の貿易と協力の玄関口であるチェンライへとつながります。



画像出典: Northern Digital Enterprise Association

今回は、互いに支え合いながら「並走する推進力」として見なされ、着実に持続可能な未来へと歩を進めているタイ北部のチェンマイとランブーンに焦点を当てます。



画像出典: チェンマイ大学

チェンマイ：イノベーションと医療の拠点



画像出典: チェンマイ大学

チェンマイはタイ北部における経済の中心地であり、現在は官民協力のもとに推進されている「チェンマイ・スマートシティ(Chiang Mai Smart City)」プロジェクトによって、本格的なスマートシティへの転換が進められています。たとえば、チェンマイ大学に実施されている「CMUスマートシティ・クリーンエネルギープロジェクト」では、太陽光発電やスマートグリッド（次世代の電力網）を導入し、再生可能エネルギーを活用して生活の質を向上させるモデルとなっています。また、環境に優しいシェア自転車アプリ、高齢者や観光客向けの遠隔

医療プラットフォーム（Telemedicine）、遠隔地から森林火災を検知するドローンなど、社会の新たな課題解決に挑むスタートアップも育成されています。

さらにチェンマイは、医療ハブ都市としての整備も進めています。総合病院、専門クリニック、優れた医療人材が多数集まるこの地域は、政府が掲げる「ウェルネス・シティ」構想とも連動し、地元住民と訪れる人の双方の生活の質を高めるために、医療・テクノロジー・伝統文化を融合させた新しい都市モデルを模索しています。



画像出典: チェンマイ大学

ランブーン：北部のハイテク産業の中心地



画像出典: dreamstie/Luvvstudio

次にご紹介するのはランブーンです。北部で最も小さな県でありながら、この地域の「産業の中心地」として欠かせない存在です。県内の工業団地には数百の工場が立ち並び、スマートフォンや電気自動車、さらには最先端テクノロジーに欠かせない電子部品や半導体がここから世界へ送り出されています。

こうした発展を支えているのは、チェンマイから車でわずか30分という立地の良さや、クワン川の豊かな水資源だけではありません。何よりも、長年にわたる海外投資家との信頼関係の積み重ねが大きな力となっています。

日本企業の村田製作所は30年以上前にこの地へ進出し、今も投資を拡大し続けています。そして近年、ランブーンはタイ初の半導体工場の拠点として選ばれ、新たな歴史を刻み始めました。

一方で、産業の成長は環境への負担とも隣り合わせです。しかしランブーンはその課題に正面から向き合い、持続可能な未来を見据えた取り組みを続けています。今年9月に開催された「Lamphun Tech Week 2025」では、AIやロボット、グリーン・イノベーションといった新しい世界を若い世代が体験できる場を設けました。そこには、単なる「成長」ではなく、「未来のバランス」として歩みを進めようとするランブーンの姿が映し出されています。

今日のタイ北部の発展は、過去と未来が響き合う興味深い姿を映し出しています。深く根付いた伝統文化を背景に、イノベーションと持続可能性を取り込みながら、新たな歩みを進めています。その中心を担うのがチェンマイとランブーンですが、そこにランブーン、チェンライ、パヤオ、ナーンといった都市の力も加わり、北部全体がひとつの大きな推進力となっています。

こうした連携が生み出す力により、北部タイは文化と自然の地にとどまらず、世界の舞台で堂々と競う「未来の地域」へと成長を遂げつつあります。

タイの暮らしと文化

第3回 総領事の食卓から BY CHEF SUE

秋の味覚といえば「かぼちゃ」。ほくほくとした甘さで、煮物やスープなど日本の食卓にも身近な食材ですが、かぼちゃはタイでも一年を通して一品料理からスイーツまで多彩に活用される食材です。

今回ご紹介するのは、秋にぴったりの温かいメニュー「タイ風かぼちゃと卵のバジル炒め（ファクトーン・パット・カイ・バイホーラパー/ผักทองผัดไข่ใบโหระพา）」と、日本の方にもなじみやすい、タイで人気のスイーツ「タイ風かぼちゃプリン（サンカヤー・ファクトーン/สังขยาผักทอง）」です。

「タイ風かぼちゃと卵のバジル炒め」は、シンプルながら奥深い家庭料理のひとつ。ほくほくとしたかぼちゃの甘さに卵のふんわり感が加わり、さらにタイバジルとにんにくの香りがアクセントとなって、ごはんが進む一品です。

そして「タイ風かぼちゃプリン」は、かぼちゃを丸ごと器にし、その中にパンダンリーフとココナッツミルクの甘い香りが広がるカスタードを流し込んで蒸し上げた、タイらしいユニークなデザートです。見た目も華やかで食卓を彩り、思わず歓声上がる一品。ハロウィンパーティーにもぴったりで、おすすめです。

秋風に少し肌寒さを感じるこの季節、タイのレシピで心も体も温まるかぼちゃ料理をぜひお楽しみください。



在福岡タイ王国総領事公邸の料理人「シェフ・スー」は、在外公館での経験と料理の腕を買われゴーン総領事の福岡着任を機に2024年5月に来福しました。大学在学中からバンコクの5つ星ホテルでフルーツカービングの実演担当やバンコクの日本人向けカルチャースクールのタイ料理講師等を経て卒業後は世界各国のタイ王国大使館、総領事館の料理人として20年近く腕をふるって来ました。



シェフ・スーのレシピ「タイ風かぼちゃと卵のバジル炒め」

材料（4人分）

- かぼちゃ（一口大に切る）150～200g
- 卵 2個
- にんにく（みじん切り）10g（2～3片）
- ホーラパー（タイバジル）10g
※バジルで代用可
- タイシーズニングソース 大さじ1/2
（おすすめは「プーカオトン」ブランドのグリーンキャップタイプ）
※日本の醤油で代用可
- こしょう 小さじ1/2（お好みで調整可）
- サラダ油 大さじ2
- 水 100ml

作り方

- フライパンに油を入れて中火で熱し、にんにくを炒めて香りを立たせる。
- かぼちゃを加えて炒め、水とシーズニングソースを入れる。ふたをして、弱めの中火で2～3分ほど蒸し煮にする。
- ふたを外し、かぼちゃを裏返して全体に火を通す。水分が少なくてもまだ硬い場合は水を足し、さらに炒める。かぼちゃが柔らかくなり、水分がなくなるまで加熱する。
- 卵を割り入れて全体を炒め合わせる。こしょうとバジルを加え、強火でさっと炒めたら火を止め、器に盛り付ける。



「タイ風まるごとかぼちゃプリン」

材料（4人分）

- 小さめのかぼちゃ 1個（300～400g）
- パームシュガー 320g（甘さ控え：250g / 上白糖で代用する場合は：185～190g）
- たまご 3個（1個約70g）
- 塩 小さじ1/4（約1.25g）
- ココナッツミルク 250g
- パンダンリーフ 3枚（卵の臭みを和らげるため、バナラエッセンス代用する場合は：1-2滴）

作り方

- かぼちゃのヘタ部分を四角や丸形に切り抜き、ふたのように外す。中の種を取り除き、きれいに洗って水気を切る。
- ボウルにパームシュガー、卵、パンダンリーフ、塩を入れ、手袋をつけた手でよく揉み込みながら混ぜ、泡立つまで約5分ほど混ぜる。
- ココナッツミルクを加えてさらに混ぜ、目の細かいこし器でこす。
- かぼちゃの中に（2）の液を注ぎ、縁から約1.5cm残して入れる。耐熱容器にのせる。
- 蒸気の立った蒸し器に入れ、弱火で45～60分ほど蒸す。
- かぼちゃが柔らかくなったら火を止めて蒸し器から取り出す。（竹串を刺して、生地（卵液）が付いてこなければ火が通ったサインです。）
- 粗熱が取れたら冷蔵庫で冷やし、食べやすい大きさに切って盛り付けましょう。

ポイント

- 強火で蒸すとかぼちゃが割れるので必ず弱火で。
- かぼちゃ300～600gなら約1時間、1kgの場合は1時間15～30分が目安。冷えてからは火の通り具合を判別できないため、蒸している最中に確認するのがおすすめです。
- タイではカスタード部分を固めが好みならアヒルの卵、やわらかめが好きなら鶏卵、と卵の種類を使い分けて固さの調整をします。

タイ文化の豆知識

「ロイクラトン祭り」は、タイの祭りの中でもひとときわ幻想的で美しい祭りの一つです。旧暦12月の満月の夜（現在の10月または11月）、この時期は川の水位も高くなり、全国各地で人々が川辺に集まります。バナナの幹や葉で作られた灯籠「クラトン」にろうそくや花、線香を添えて水面に流し、川の女神「メー・コンカー」へ一年の感謝を捧げます。同時に、知らず知らずに水を汚してしまったことを詫げる意味も込められており、タイの暮らしに根づいた**美しさと思いやりにあふれた伝統行事**です。

川面に浮かぶ灯籠の光が満月と重なり、神秘的な美しさを生み出します。さらに夜空に花火が広がり、幻想的な雰囲気はいっそう高まります。バンコクではチャオプラヤー川沿いを中心に華やかなイベントが繰り広げられ、音楽や光、さまざまな催しでにぎわいます。公園や池でもクラトンが流され、街全体が幻想的な祝祭ムードに染まります。チェンマイのロイクラトン祭りは「イーペン祭り」と呼ばれ、川面に流れるクラトンに加えて夜空にランタンを放つ光景が有名で、世界中から観光客が訪れるほどの人気を誇ります。

さらにスコータイ歴史公園で行われるロイクラトンは、遺跡を舞台にした光と音のショーが圧巻で、タイの歴史と文化を体感できる特別な機会です。

このお祭りは、家族や友人、恋人と一緒に楽しむ行事としても親しまれています。川辺には屋台やナイトマーケットが立ち並び、伝統料理や雑貨を味わえるのも大きな魅力です。クラトンは会場で購入することもできますし、自分で手作りするクラトンを流すこともでき、幻想的で特別な思い出となるでしょう。

ロイクラトン祭りは世界からも注目される行事で、タイ政府は「**タイのロイクラトン祭り**」をユネスコ無形文化遺産へ提案することを決定しています。2025年のロイクラトンは11月5日です。美しい満月と花火、そして灯籠の光が織りなす幻想的な夜は、訪れる人々に忘れられない感動を与えてくれるでしょう。

「ロイクラトン祭り」に関するタイ語

※前回ご紹介した「สุขสันต์วันสงกรานต์ (スック・サン・ワン・ソングラーン)」と同様に、今回はロイクラトンにちなんだ表現をご紹介します。

"สุขสันต์วันลอยกระทง" (スック・サン・ワン・ロイ・クラトン)

意味：「ロイクラトン祭りおめでとうございます」

- สุขสันต์ (スック・サン)：「～の日おめでとうございます」という祝いの表現。
- วัน (ワン)：「日」
- ลอย (ロイ) 意味：「浮かべる」「流す」
- กระทง (クラトン) 意味：「バナナの葉やその他の葉を縫い合わせて作った器で、縁を高く立ち上げて物を入れるために用いる。また、ロイクラトンの行事で水に浮かべるために作られる器/灯籠も指す」

